第 12 回新市将来構想策定小委員会

議　事　録

第 12 回新市将来構想策定小委員会会議録

1　会議を開催した日時及び場所

・日　時　平成１５年9月２５日（木）　午後3時
・場　所　長岡市役所第3委員会室

2　会議出席委員の氏名

豊口　協	二澤　和夫	山本　俊一	佐々木保男
熊倉　幸男	米持　昭次	坂牧宇一郎	村上　雅紀
北村　公	池田　守明	伊佐　文也	小池　進
高野　徳義	野田　幹男		

以上　１4名

（欠席委員の氏名）

外山　康男	長谷川　孝	朝日　由香

以上　3名

3　議題及び議事の要旨

別紙のとおり

長岡地域任意合併協議会新市将来構想策定小委員会

◎事務局（高橋）

それでは、定刻になりましたので、ただいまより長岡地域任意合併協議会第12回になりますが、新市将来構想策定小委員会を開催いたします。

なお、本日の小委員会ですが、外山委員、それから長谷川委員、朝日委員が都合により欠席となっております。半数以上の委員の出席をいただいておりますので、小委員会の規程により会議が成立していることを報告いたします。

それでは、お手元の次第に従いまして順次進めさせていただきます。なお、恐れ入りますが、ご発言の際はお近くのマイクを使っていただきますようにお願いをいたします。

まず最初に、小委員会委員の変更がございましたので、ご報告をいたします。

越路町の石黒委員にかわり、伊佐文也様が委員に就任されました。本日の小委員会からご出席いただいておりますので、ご報告いたします。伊佐さん、恐縮ですがその場にご起立をお願いします。

◎　委員（伊佐文也）

伊佐です。よろしくお願いします。

◎事務局（高橋）

それでは、議事に入らせていただきます。この後の議事進行につきましては、豊口委員長よりお願いをいたします。

では、委員長お願いいたします。

◎委員長（豊口　協）

それでは、早速ですが、これから議事に入らせていただきます。

実はお手元に既に事前にお配りしてございますけれども、すばらしい報告書が、構想書ができ上がってまいりました。今まで何回かにわたりまして議論をしていただいた内容、それも非常にわかりやすい文章に精査されまして、ここに概要として含まれております。今日これをご議論いただいて最終的な段階に入るということで、10月１日の小委員会で最終的な決定をしたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

それでは、お手元の資料を中心に事務局の方から概要についての説明をお願いしたいと思いますが、よろしくお願いします。

◎事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明を申し上げます。失礼ながら座って説明させていただきます。

お手元の長岡地域新市将来構想をごらんください。人は財、いきいき都市・新ながおかということで、表紙から始まっているものです。こちらの構想書につきましては、前回イラストとか入っていない段階でごらんになっていただきました。内容については、ご確認いただいたということで、本日新しく盛り

込んだ部分とかありますんで、そういった部分を中心にご説明をさせていただきます。

１ページ目と２ページ目が表紙のイメージという形でとらえていただきたいと思います。１ページ目は、ちょっと都市的な感じ、それから２ページ目は、田んぼも前面に出した形のイメージの表紙となっております。これは、どちらか後でまたご議論いただきたいなと思います。

それから、右上の方に仮のページを打ってございますんで、そちらのページの方をごらんいただきたいと思います。

３ページ目が会長のあいさつと、あと上の方に絵巻物、それから右下の方に協議会の委員さんの名簿を記載させていただきたいと思います。

４ページ目ごらんください。こちら本日初めて提出させていただいております。こちらの新市将来構想書というのは50年に１度の歴史の中での位置づけであるということから、まちづくりの足跡として長岡地域の歴史的な人物の話を載せております。こちらにつきましては、社会が重要な局面に向かったときに、大きな社会のレベルで地域を考えてきた人々を載せてあります。これが４ページ、５ページ目です。

続いて、６ページ目です。左の方に目次が記載されております。本日お持ちしているのは大体120ページぐらいになっております。構成につきましては、前回お話しさせていただいた部分と変わっておりません。第１部につきましては、新しいまちづくりの進め方ということで、新市将来構想の役割や構想策定の手法について説明をさせていただいております。これは、小委員会で今までも検討されてきた考え方等をまとめてあります。

７ページ目をごらんください。こちらは、左側の方が市町村合併と将来構想のかかわりということで、一般の方々は合併とのつながりということから、将来構想の役割を考えられるということで、一般の人々にいろいろ考えていただくという観点から投げかけております。それから、右側の方ですが、右側の上の方に合併とのかかわりを考え、今つくるべき新市将来構想の考え方をまとめております。三つまとめておりまして、上から合併は50年に一度の歴史的局面ととらえて、長い期間を見据えた新長岡のまちづくりの方針であるということ。それから、二つ目が各地域の人々の思いによってつくられる新長岡のまちづくりの方針であること。それから、三つ目が市民と行政が一体となって全市を挙げてともに取り組んでいく新長岡のまちづくりの方針であることということで、三つにまとめております。下側の方が参考資料といたしまして、将来構想と今後つくっていく建設計画、それから合併後の総合計画との関係を説明しております。一番下の図は、ちょっと図柄的に考え方をわかりやすくまとめてあります。新市の発展を先行的にやっていくための必要な戦略方針ということで、一番上の赤い部分が、とんがっている部分で島と考えていただいて、水色の部分が建設計画以下が海をイメージしております。長岡地域の合併した場合の一番特色のある部分を出す部分であるということで、新市将来構想を考えていったらどうかということです。その戦略的に特色を出して、空から見たときにぱっとどういう地域かということがわかるといったことをこの将来構想でまとめていると、もちろん将来構想というのは建設計画、それか

ら総合計画につながっているということで、イメージ的にまとめております。

８ページ目をごらんください。左側が、こっちの８ページ目が地域の視点・人間の目線から将来構想に向けた課題ということで考えております。課題につきましては、大きく三つにまとめました。課題の１としましては、合併に向けた地域の視点からの課題ということで、その中心部だけが栄えて周辺部は寂れるのではないかとか、そういった地域の変化や伝統が生かされないのではないか、そういった課題から解決の視点、それから方向性を左側の課題１でまとめております。方向性といたしましては、市民の心や意志を酌み上げる手法や各地域の地域らしさを生かす取り組みが必要であると、課題２といたしましては、これまでの構想や計画に見る課題ということで、いつの時代にも色あせない構想とは何かという形で課題を挙げております。方向性といたしましては、将来にわたって考えた過程が確認できる方法や仕組みづくりが必要であると、課題３といたしましては、現代が直面する社会状況からの課題ということで、不確実性の時代にも対応できる構想はどう考えていくかということで、方向性といたしましては、単なる施設整備の構想ではなくて、市民が目標と夢を持ち続けることのできる共有価値を明確にする構想の骨格となる検討の方法が必要であると、そういった形でまとめております。右下にその三つの課題と、それから将来構想の方針の考え方の関係をまとめております。

９ページ目をごらんください。こちらは、新市将来構想を組み立てる基本方針と将来構想策定の流れでございます。これまでに記載した課題と課題解決の視点と方向性から、左側の方に基本方針をまとめております。全体方針と、それから調査あるいは計画の方針を左の方にまとめております。右側の方が今まで将来構想を策定してきた流れでございます。

10ページ目をごらんください。こちらは、将来構想の基本的な考え方が生まれてきているものをまとめております。こちらちょっと難しい専門性のあるところでございますけれども、課題解決のヒントとしてももっと詳しく知りたい方のためにまとめております。左側が人間の心の科学に注目するということで、人間にとって思うことが最も重要な動機であると、それから人間の考える仕組みでなるべき地域を導く、それから右側の方ですけど、時代を生き抜く企業や組織の変革ということから、持続的な繁栄には自分らしさが必要であると、それから下側の方で目に見えない価値観やイメージこそ求心力となるということを詳しくこちらの方で説明をしております。第１部がこちらのコラムとあわせてまとめてございます。

11ページ目から新しいまちづくりを考えるということで、各種調査の結果について、こちらの方で報告をしております。こちらちょっとデザインとか写真も含めながら、本日ご提示をさせていただいております。

12ページから地域アンケート調査ということで、15ページまでちょっとデザインも工夫しながらグラフ等を活用しております。

それから、16ページがまちづくりワークショップということで、ワークショップの開かれている写真等を載せております。

17ページが有識者ヒアリングです。

続いて、首長、議会代表者の取材調査です。

それから、19ページ目以降が地域の集まったたくさんの声を小委員会で統合されている過程をあらわしております。これが19、20、それから21ページです。

21ページは、キーワードから地域らしさ価値の具体化方針をまとめている経過を明らかにしております。

それから、本日初めてご提示させていただいているんですけど、22ページです。地域の強みということで、８市町村が合併したときにどういう強みがあるのかということを簡潔にまとめております。１番目が地勢、人口ということで、30万人を超えるということで、中核市に該当していくということで、もし合併すれば面積的には全国でも６番目の広大な面積の市となるということ、それからリーダー的な市が生まれるということになります。それから、豊かな自然を、こちらに書いてございますように自然面積が46％ということで、豊かな自然を抱えた地域でもあるということになります。それから、２番目が交通の要衝性ということで、広域交通面で優位性を持っているということがおわかりいただけるかと思います。

23ページです。３番が農業でございますけれども、こちらの長岡地域は米生産額についても県内第１位を誇っているということで、量、質ともに一大の米産地であるということがおわかりいただけるかと思います。それから、４番がものづくりの技術でございますけれども、製造業が歴史的に盛んであるということで、こちらについて表でまとめております。それから、右側の方が地域の強みで、自然、文化、伝統ということで、産業や農業とあわせていろんな地域の伝統とか歴史が文化として大切に受け継がれているということを写真であらわしております。ここで、またコラムを挟みまして、24ページ以降が新しいまちの姿、地域で共有したい価値ということで、第３部がまとめてあります。

おめくりいただきますと、25ページ以降がこちらの将来構想の核となる部分です。新市地域らしさ価値の１から４、25ページが独創企業が生まれ育つ都市、こちらについてはちょっとイメージ的な部分も写真も挟みながらご紹介をしております。

26ページが元気に満ちた米産地です。

27ページが世代がつながる安住都市です

それから、28ページが世界をつなぐ和らぎ交流都市です。

続きまして、29ページが新市の統合ビジョンということで、写真を入れながらご紹介をしております。

30ページをおめくりください。こちらにつきましては、新市地域らしさ価値を高めるための重点実現項目ということで、こういった見極める、発信する、育てるということで、重点実現項目ごとに写真を掲載をしております。背景につきましては、今後も変えていく可能性がございます。

それから、31ページが元気に満ちた米産地の重点実現項目です。こちらもイメージ写真を入れております。

32ページが世代がつながる安住都市です。

33ページが世界をつなぐ和らぎ交流都市の重点実現項目です。

それから、コラムを挟みまして、第４部に移っております。私たちの望むまちと取り組みということで、こちらの新市地域らしさ価値を高めるために、各地域として何ができるかということで、各地域の強みを生かしながら活動していくということ、取り組み内容をまとめております。今こちらにつきましては、各地域の概況や特性も紹介することになっております。

35ページをごらんください。こちら長岡地域の例でございますけれども、左側の方に、まず長岡地域はこんなところということで、今現在長岡市のまちの成り立ちとか、今の状況を地図とかで紹介しております。

それから、37ページをごらんください。各市町村同じような形でご紹介しております、もっと詳しく地域の力ということで、写真を含めながら紹介していくような形になっております。こちらの各市町村の地域別整備・活動方針の部分につきましては、今各市町村の担当の方といろいろお打ち合わせさせていただきながら、今後詰めていきたいと考えております。

以降51ページまで各市町村の地域別の整備・活動方針をまとめております。まだちょっと写真等もそろっていないところもございますけれども、１日までにはちゃんと詰めて写真等もそろえていきたいと思っています。

続いて、52ページをごらんください。こちらが新市全体での取り組みということで、第３部で紹介した四つの新市地域らしさ価値を高めるための重点課題を達成していくために、新市全体で取り組む活動展開を示しております。こちらについては、30万都市だからこそできるものとか、あるいは各地域の活動展開の連携、それから市民と行政が一体となって取り組む活動を視点にして検討した結果をまとめております。展開の例でございますけれども、今回右側の方に展開の例を持ってきているようなスタイルにしております。新市全体で取り組む活動展開につきましては、小委員会の方で決定させていただいておりますが、展開の事例につきましてはもう少し検討する余地があるかと思います。

52ページ、53ページが新市全体での取り組みです。それから、コラムを挟みまして、まちづくりのこれからを考えるということで、こちらについては地域自治をめぐる社会状況とか、あるいは地方財政の将来動向の検討から今後の市民と行政の基本姿勢について取りまとめております。

55ページは変わっておりません。

56ページをごらんください。左側の新市の財政状況はということで、財政シミュレーションをちょっと固めている段階でして、今後こちらの方は変わります。それから、右側の市民と行政の基本的なあり方について、委員さんの方からもう少し詰めていただきたいというご意見もありましたので、ちょっと変えている部分がございます。大きく変わったのが、（２）の行政の取り組みの姿勢なんですけど、前回市民の視点でということをもっと強く表現できないかというご意見いただきましたんで、こういう形で変えております。「行政は、常に市民の声に耳を傾け、生活者の視点でまちづくりに取り組みます」

という形で変えております。

それから、最後の57ページ以降ですけれども、こちらが夢の形ということで、地域らしさ価値を高めていくといろんな夢が出てくるということで、夢は住民一人一人が違っていると、一人一人にあるということで、こちらのコーナーではストーリーを持たせて、一人のおじいさんと孫の会話の形式にしております。イラスト等も含めながら、想像力を高めるような形でしております。こちらについては、いろんな方々から読んでいただくためにこういった対話形式にさせていただいております。これを読んでいただくと、大体将来構想の今までのやってきたこととか、それから活動を高めていくとどんなことが生まれてくるかということがおわかりいただけるかなと考えております。それが３ページ続いております。

それから、最後60ページでございますけれども、策定経緯、それから策定メンバーです。構想書にいろんな方から参加をいただいたわけですけども、そういった参加していただいた方々の紹介をさせていただいております。

以上、簡単でございますけれども、説明させていただきました。ごらんになっておわかりになるかと思いますけれども、将来構想というのが今の人たちだけでなくて、将来、未来の人たちにもわかっていただくということが必要であるということで、結果だけではなくて、策定の考え方、それから検討の過程をこのようなイメージでさせていただいております。

それからもう一つ、一番重要なのは地域の方々の思いとか期待、それから希望やありたいと思う事項が原点になると、そこから出発して30万人の人たちが共有すべき新市の地域らしさ価値を導いて、その価値を高めていくために地域の資源の強みを生かしてどういう活動をしていくか、そういったことを考えていく構想であるということでまとめてあります。

以上でございます。

◎委員長（豊口　協）

どうもありがとうございました。過去11回にわたりまして、各委員の方々からご意見をいただいたり、ワークショップの方々の議論と報告会の内容を聞いたりしながら、おかげさまでここまで内容がまとまってまいりました。今日は最終的な段階に入る前の段階としまして、最終的なご意見をいただいてまとめに入りたいと、こういうことでございます。

今日説明の中でもありましたけども、30万都市になりますと、日本で６番目の大きな市になります。これは、ベストテンに入っているわけでございますので、日本を代表する国際地方地域というか、都市としてこれから一つの大きなプライオリティーを持ちながら前進をする時代が来るのではないかというふうな気もいたします。

そういうことを前提としまして、これから最後の調整に入らせていただきたいと思いますが、最初に表紙が２案ございます。田園風景がいいか都市風景がいいかと、この辺でちょっとご意見をいただきたいと思いますけど。これは、頭の毛が燃えたようになっていますが、これは燃え盛る炎のようなもんで、若い新市のエネルギーがここに象徴されているということのようです。それから、八つの玉があります

けど、これは合併をする８市町村の象徴的な心を表現しているというふうなことを聞いております。そういうわけで、このデザインが最終的にまとまってまいりましたので、今日は田園風景がいいか都市風景がいいか、この辺を含めてご意見をいただきたいと思います。どなたでも結構です。別にこれは決をとることでもないと思いますけれども、望ましい表紙はどっちかなということなんですが。

◎委員（北村　公）

　これは、表紙だけですか。

◎事務局（竹見）

　表紙だけです。

◎委員長（豊口　協）

　表紙はいかがですか。

◎委員（北村　公）

　一番最初の表紙のところに丸が書いてありますよね。これは八つあるんですけども、右側の方は僕の数え間違いかもしれないですけど、七つしかないんですけども、別に意味はないんですかね、八つにするのも何か意味があるのかと思いますが。

　　「八つあります」という声あり

◎委員（北村　公）

　八つあるんですか。

◎委員長（豊口　協）

　色が溶け込んでおりまして。

◎　委員(北村　公)

　どっちでもいいんですが。

◎　委員長（豊口　協）

　意味があるんですが、田園風景がいいか、都市風景がいいかと。

　はい、お願いします。

◎委員（野田幹男）

　どちらもいいです、どちらも入れたいです。それで、今八つある左側の方、何かこれだけじゃ殺風景のような感じなんで、ここを少しデザインを変えてナンバー１とナンバー２のものを両方とも挿入する努力はできないもんでしょうか。

◎委員長（豊口　協）

　これ左と右にありますけど、表表紙と裏表紙。

◎委員（野田幹男）

　そうなるんですか。

◎委員長（豊口　協）

ですから、これ二つに折れますから、真ん中で折れます。

◎委員（野田幹男）

じゃ、この８市町村のは最後の裏になるんですか。

◎委員長（豊口　協）

両方とも８市町村あるんです。右側にもあるんです。

◎委員（野田幹男）

だから、この８市町村のが一番そうすると裏になるわけでしょう。

◎委員長（豊口　協）

いや、表にも八つ玉があるんです。頭の毛のところにとんとんと。

◎事務局（高橋）

こう見ていただきますと、こちらが表になりまして、こちらが裏になるということで、今たまたまＡ３でつくっておりますので、こういう形になっていますが、本体はＡ４版、このサイズになって、これは裏にくるということです。

◎委員長（豊口　協）

表にも八つの玉がずっと散らばっております。

◎委員（野田幹男）

なるほどね。そうすると、この部分が裏になるわけですよね。何かちょっと殺風景のようだが、ここにもう少し、どちらかを市街地にしてどちらかを田園風景にするか、その方が感じがいいんじゃないかなと思いますが、皆さんの意見もお聞きしながら。

◎委員長（豊口　協）

１ページの方が裏表紙は割合派手になっています。

じゃ、１ページの案でいくということでよろしいですか。

「異議なし」という声あり

◎委員長（豊口　協）

じゃ、そういうことにさせていただきます。

まず、表紙が決まりました。あと内容ですが、順番にやっていきますといろいろあれですけども、今まで議論していただいて、この委員会で承認をしていただいた内容が全部整理されて入っておりますけれども、特にお気づきの点がありましたら。

◎事務局（高橋）

委員長、申しわけございません。全体についてご意見をいただく前にちょっとお話をしたいんですが、これ印刷の関係で少し小さく見えるかもわかりませんが、実際はこの紙の大きさが実際の大きさになりますんで、これが要するにここまでくるということです。ですので、中身も文字がちょっと小さいとお感じになるかもわかりませんが、これがここまでくるというイメージですので、全体的に広がると、紙

の大きさとしてはこの大きさ、この半分の大きさになるということでご理解ください。申しわけございませんでした。

◎委員長（豊口　協）

　ということで、おわかりでしょうか。トンボが入って枠がつくってありますけども、この枠が紙のサイズまで拡大されるということです。ですから、全体に大きくなるということです。

◎委員（野田幹男）

　これは、Ａ４版になるんじゃないんすか。

◎委員長（豊口　協）

　そういうことです。

◎委員（野田幹男）

　そうでしょう。

◎委員長（豊口　協）

　それでは、内容に入っていきたいと思いますが、全体を通してご意見を。

　はい。

◎委員（山本俊一）

　事務局の方でまとめられたのは非常に大変なあれだったんだろうというふうには思うんですけれども、これだけのページ数、本当にこれみんな読むかということなんです。ですから、私はいろんなのがここへ出て、ヒントですとか、あるいはさまざまなものが出ておりますけれども、本当にこのものを読んでもらいたいというものをできるだけ集約させたような形のものが私は望ましいというふうに思うんですけれども、ここにまた一番最初のときのヒントで心の科学だとかいろんなのが出ていますけれども、やはり余り広げないで、この合併に対しての考え方を集約したような形の中できちっと人々にみんなわかるような形にした方が一番いいんじゃないかなというふうに思います。

　それと、例えば25ページの独創企業が生まれ育つまちだとか、都市ですとか、あるいは30ページにその重点実施項目というふうになるんですが、ほとんどダブっているような文言がずっとあるんですよね。そんなのを何回も同じようなのを繰り返してやるのよりは、やはり一つの形の中にまとめた方がすっきりしていいんじゃないかと。できるだけ読ませたいものをきちっと誘導させる、読んでもらうというふうな努力をもう一回ひとつ視点を持ってお願いをしたいというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。

◎委員長（豊口　協）

　ありがとうございました。ポイントがはっきりわかるような編集はできないかということです。

　はい、お願いします。

◎事務局（北谷）

　我々も概要版をつくる予定にしておりますので、その点ご指摘のとおりのようなものをつくるように

予定しております。
◎委員長（豊口　協）
　ありがとうございました。この小委員会の11回にわたる内容、積み重ねが整理されて入っておりまして、これを読んでいただければ小委員会の機能が全部理解できるということになると思います。今事務局からお話ありましたように、さらにこの中からぜひとも理解してもらいたいポイントについては、別冊で編集をしていただいて、読みやすくわかりやすいまとめをぜひ別につくっていただくということになると思いますが、よろしいでしょうか。
◎委員（小池　進）
　大変細かい点なんですけども、表現上の問題ですが、８ページの左側の方で、解決の視点という、下の方です、課題２の解決の視点の①でございましょうか、その中にどの時代の未来の人々にとっても、これはわかるんです。この時代に生きた人々がどう考えたのか、この時代というのは今の我々のこと言っているんだろうとは思うんですけども、こういう表現でいいのかどうかなと非常にわかりづらい表現じゃないかと思います。
　それから、その右側の11ページの課題３の一番上の１行目ですが、さまざまな価値感、この感は見るの観じゃないでしょうかね、そういう細かい点で恐縮なんですけども。
　今のところそんなところですが。何かずっと見ていきますと、そういう細かい点が幾つかあるように思いますので、次に出されるときにその辺気を配ってやっていただければいいんじゃないかと、このように思います。
　以上です。
◎委員長（豊口　協）
　ありがとうございました。何かその件で。
◎事務局（高橋）
　まだ今日提示させていただいたものは、いわゆる字句の部分についての整理は１回かけてあるんですが、これから引き続きかけていきますし、なお今日終わった後も来週の月曜日の午前中ぐらいまでお気づきの点があれば、また修正かけ、いただいたものをできるだけ直して１日の日に出したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
◎委員長（豊口　協）
　ありがとうございました。
　ほかに。
　はい、お願いいたします。伊佐さん。
◎委員（伊佐文也）
　地域の夢の中之島地域の図面です。中之島が北側にあります。その右側のところへ見附市が入らないといけないかと私は思いますけれども、これだと７市町村になりますから、些細なことですが。

それから、私のところ越路町ですが、越路町のいわゆるＰＲといいますか、ものの中に、私は初めてですけれども、ぜひ井上円了さんの記事を何か入れていただけるような方策はないもんかなと、こう思っています。というのは、井上円了さんは、東洋大学の創始者でいらっしゃいますし、私の方の町の人物といいますか、先人からしますとかなり貴重、重要なお人であるとの認識でありますので、お願いしたいということと、それからもう一点は、越路町の天然ガスの利用の関係について字句を加えていただけるようにお願いしたいんですが、新潟日報に８月26日付で天然ガスを利用した中で火力発電所の計画が2005年10月ごろからというようなことが書いてございましたので、そういうものがもし越路の地域の中に字句が入ればなと、こう思っておりますけれども、よろしくお願いしたいと思います。

以上です。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。事務局よろしいでしょうか。

◎事務局（高橋）

今の点につきまして、越路町の担当の方と相談をしながら、修正できる部分は修正をしてまいります。ありがとうございました。

◎委員（北村　公）

私も同じようなことなんですけども、一部修正を、これは栃尾の方で合意形成されたもので、ここでお願いしたいんですけれども、41ページです。世界をつなぐ和らぎ交流都市のところなんですけれども、豊富な観光資源のところで、道の駅云々とありますが、雪ということを入れていただきたいなというふうに思います。その下の、見極めるのところですけれども、観光拠点を活用した体験型メニュー、その括弧の中にイベント等と書いてありますが、「雪の暮らし、イベント等」というふうに入れていただきたいいうふうに思います。あわせて、発信するのところですが、発信するのところに「雪とかかわりの深い行事やスキー場等を活用した雪国の魅力の情報発信」ということを追加して入れていただきたいというふうに思います。お願いします。

◎委員長（豊口　協）

事務局、これはよろしいでしょうか。

◎事務局（竹見）

こちらにつきましては、小委員会の方でちょっとご協議願いたいと思うんですけども、入れる入れないも含めて。

◎委員長（豊口　協）

それでは、もう一度詳しく、ページは。

◎委員（北村　公）

41ページです。世界をつなぐ和らぎ交流都市の豊富な観光資源というところで、右側です。資源の強み・内容のところですけれども、豊富な観光資源というところに道の駅云々とずっとありますが、イベ

ントのところに、次に「雪」という言葉を入れていただきたいというふうに思います。

そして、もう一つ、見極めるのところですけれども、自然・文化（歴史・食）というふうな形でずっとありますが、その次です。観光拠点を活用した体験型メニューのところですが、その括弧の中に「雪の暮らし、イベント等」というふうに入れていただきたいと。

そして、もう一つなんですけれども、発信するのところです。発信するのところに「雪とかかわりの深い行事やスキー場等を活用した雪国の魅力の情報発信」というのを追加して入れていただきたいというふうに思います。お願いいたします。

◎委員長（豊口　協）

雪が抜けているということですね。

◎委員（北村　公）

そうです。はい。

◎委員長（豊口　協）

という提案ですが、いかがでしょうか。ご異議がなければ、そういう文章を挿入させていただくことにしたいと思いますが、よろしいですか。

「異議なし」という声あり

◎委員長（豊口　協）

はい、ありがとうございました。

ほかにございませんか。

はい、お願いいたします。

◎委員（村上雅紀）

最初と最後におじいちゃんが孫に伝える、締めくくられてあるんですけども、これは別にこれでいいとは思うんですけど、最初のまちづくりの足跡というのをずっと読んでいくと、任意協では長岡市に皆さん編入ということで決まっておるんですけども、どうしても長岡市中心の歴史しか書いてないような文言が多いように思えるんですけども、もう少しトータルで８市町村で、それを言葉とすると表現的になかなか難しいのかもしれないんですけども、そういう角度の少し文言があった方が、私はこの資料はいいのかなと思います。長岡の歴史だけをおじいちゃんが孫に伝えているようなのにとらえがちなもんですから、その辺もう少し考えてみてはいかがでしょうか。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。事務局いかがですか。今日これは初めてですよね。

◎事務局（高橋）

はい。まだ検討する、完成版でありませんので、工夫をします。

◎委員長（豊口　協）

どなたが読んでも気持ちよく読めるのが一番いいんだろうと思いますけれども、よろしくお願いいた

します。

ありませんか。

はい、お願いいたします。

◎委員（高野徳義）

これは、どの程度まで完成したら配るんですか、全市民対象で。

◎委員長（豊口　協）

これは、事務局お願いいたします。

◎事務局（高橋）

配るのは全部完成してからということになりますが、10月の７日の合併協議会の最終の日に協議会の方でご承認をいただいて、それから印刷に入るというようなつもりでおります。

それから、住民の方たちに全部お配りしますのは、先ほど見附市の助役さんの方から話がありましたけども、これを全部全世帯に配るということではなくて、この中から協議会全体の状況を住民の方にお知らせする中にこれも何ページか入れて、そういう形で全世帯にお配りをしたいと思っておりますので、全世帯にお配りするものは20ページとか二十何ページとかというものですし、これは皆様方、それから協議会の委員の方、それからそれぞれの市町村の関係者の方にお配りをするというような予定でございます。

◎委員（高野徳義）

そうですか。はい、わかりました。村で簡単に説明会を一回やったんです。その場所では余り意見なかったんですが、うちへ帰ったら何人か来られて、横文字というかね、そういうのが非常に多くてわかりにくいと、それで言われたんですが、ワークショップだとかフィールドミュージアムだとかいろいろ言われたんですが、もっとわかりやすくならないかというのが非常に、その場所では出なかったんですが、個人的にいっぱい来たもんですから、その辺がもしなれば。

◎委員長（豊口　協）

はい、ありがとうございました。皆さんにお配りする内容については、またそういう時期についてはいろいろと配慮していただいてお願いしたいと思います。ありがとうございました。

私がひとつ気になっているところがありまして、37ページの長岡なんですが、もっと詳しく地域の力というところの写真なんですけども、資料館が入っているんです。歴史資料館、これちょっと見ますと、知っている人は、これは長岡城ではないと思うんですけども、知らない方が見ると、この上の文章は長岡市は幕末と、こう入っていくわけですから、これは長岡城として誤解されるおそれがあるという気がするんですけども、そういう意味でこれはできれば資料館と入れるか、差しかえるかということなんですけども、どうでしょうか。よろしいですか。

「異議なし」という声あり

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。長岡へ来て以来10年間非常に気になっているんです。

ほかにございませんか。

◎委員（二澤和夫）

今委員長さんがおっしゃったのと同じこと、例えば11ページの写真なんかもありますけれども、やはり写真については、今郷土資料館じゃありませんけど、説明の入っているところと入っていないところがあるんで、原則として写真についてはどういう風景だとか、どういうというのは説明を入れるというふうで、そういう目で一回ずっと見ていって、私もずっと見ていくと入っているところ、入っていないところそれぞれありますので、できるだけ、デザイン的に使っているのは別ですけれども、そうじゃない場合については、写真の説明を入れていただいた方がいいんじゃないかという気がいたしました。

◎委員長（豊口　協）

はい。

◎委員（野田幹男）

22ページなんですが、よそはどうかわかりませんけれども、一番右下の方で高速拠点、インターまでのアクセスというのがあるんですが、小国の場合14.6キロ、これは町の役場から高速のインターまでを基本的にうたっておられるんですか。

◎委員長（豊口　協）

これは、いかがですか。

◎事務局（高橋）

そうです。

◎委員（野田幹男）

そうですか。最近トンネルができたもんですから、前と違ってこれは大幅に短縮されておりますから、皆さんに諮れということでなくして、小国町の役場の職員もおりますから、これちょっともう一回確認してみてください。

◎事務局（高橋）

時間の実時間については確認いたします。

なお、今のご質問のものは、下にちょっと小さいんですが、米印の一番最初のところに各市町村からインターチェンジまでの延長は各市町村の中心部（役所所在地付近からのもの）という表記をしてありますので、小国町さんであれば小国の役場から、このケースであれば小千谷インターまでということになりますので、時間についてはご指摘のとおり確認いたします。

◎委員（野田幹男）

いや、私が言うのは時間じゃなく距離です。14.6キロはないです。

◎事務局（高橋）

申しわけございませんでした。３のところなんですけども、今の米印のところなんですけども、平成

11年度の道路交通センサスにおけるということで、すべての市町村からの距離がはかられた、そのデータでここに表記してありますので、今時点とはその部分は違っていると思いますが、11年度の状況ということでご理解いただきたいと思いますが。

◎委員（山本俊一）

新しいデータでやったらどうですか。

◎事務局（高橋）

工夫いたします。この部分だけそうすると調査時点が違うような形になりますけども、それでよろしければ。

◎委員（野田幹男）

それぞれの市町村確認してみたらいかがですか。最近のデータの方がやはり住民にはいいんじゃないでしょうか。

小千谷峠がずっと上の方通って、トンネルが上にあったんですけれども、今度インターから1,972メーターというトンネルができたもんですから、距離が相当短縮されたんです。

◎委員長（豊口　協）

これは、いつのオフィシャルなデータで表記するかということは非常に難しいと思うんです。もし現在のデータですべての市町村のインターチェンジまでの距離が整理されているとすれば、それはそれに差しかえることが一番好ましいと私は思いますけども。その辺どうでしょう。

はい。

◎委員（山本俊一）

新しい情報が一番だと思います。平成11年のこれに基づかなきゃならないという理由はありません。

◎事務局(竹見)

それで、公的に発表されているという、そういった資料をもとにつくっていますもんで、もし今後ご事情が違うということになれば関係機関にちょっとお問い合わせさせていただいて、最新のデータにつくりかえるということでどうでしょうか。

◎委員長（豊口　協）

じゃ、そういうことで。

◎委員（野田幹男）

実質的には、旧道は交通アクセスとしては交通止めなんです。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。できるだけ新しい資料をここに記載するということで、方針としてそういうふうにさせていただきたいと思います。

◎委員（野田幹男）

いま一点お願いしたいんですが、当然最終回と申しますか、次回の任意協の皆さんからやはりゴーサ

インが出ないと、これは製本にはならんと思います。先ほども山古志の方でお話あったわけですが、私もこれはこれでよろしいんですけれども、先ほど見附の助役さんが言われたダイジェスト版と申しますか、一般の皆さんにわかりいいようなものをできるだけ早くお願いできないかなと、というのは私ちょうど今日議会中でありまして、今日一般質問、小国町は。18名中11名の一般質問でありますけれども、大方の皆さんがやはりこの市町村合併を取り上げているんです。それで、異口同音に新市の将来構想が出てこないじゃないかと、しかし小国が言っているようなもんじゃないという話はしているんですけれども、いずれできる限り早い時点で、それは事務局も誠心誠意やっているもんだからという話はしてありますけれども、皆さんもご承知のように小国町の場合住民投票を控えたり、町長が10月の20日ごろからですか、33集落を回るという中ではちゃんとした将来構想、あるいはそれなりの町民が理解でき得るようなものを持って回ってほしいというのは、これは異口同音にそういう声があるわけですが、皆さんも大変だと思いますけれども、私も一般町民のわかりやすい、こうなるんだなというイメージを持てるようなダイジェスト版ができ得ればできるだけ早い時点でそういうものをお願いできればというふうに特にお願い申し上げます。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。貴重なご意見として拝聴しておきたいと思います。よろしくお願いします。

ほかにございませんか。

はい。

◎委員（二澤和夫）

細かい字句については後で修正、私もできる限り見て、また事務局の方に言いたいと思うんですが、ちょっとひっかかりますのは、意思というのは志の意志と、それから思うという字が両方ちゃんぽんに使われていますし、それからときが漢字の時と、漢字の時を使うということはまずないと思うんですけど、これは全部平仮名のある場合という場合はときですが、ジャストモーメントの場合は漢字ですけれども、ある場合という場合には平仮名表記が正しいんで、その辺と、もう一つは思うという字が想という字を使ったり田んぼの心を使ったり、それも大分ちゃんぽんですので、その辺ずっとそういう目で一回見通す必要があるのかなという気がいたしておりますので、私も気づいた範囲で後でメモでお渡ししたいと思いますけれども、よろしくお願いをいたします。

それからもう一つ、これ文章としてちょっとわからない文章があるんですけど、７ページですが、非常にちょっと難解で私にはよくわからないんですけど、真ん中よりちょっと下、合併を50年に一度の云々というところで、市町村合併には８市町村云々という、この４行ぐらいの文書がどうもワンセンテンスが非常に長いんですけど、つまり何が言いたいのかというのはよくわからないんで、少し文章を整理していただいた方がいいような気がいたします。

それから、やはり先ほどもう一カ所文章の問題が出ましたけど、次のページの８ページのところのやはり下の方、解決の視点のところの①の文章、人間が過去から云々というふうなところ、この文章も少

し練っていただいた方が、つまり何が言いたいのかというのはちょっとわかりづらいような気がいたしております。

以上です。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。文章上でちょっと難解なところが幾つかあると思います。ぜひとも委員の方々これからもう一度読み返していただいて、問題があれば事務局の方にご指摘をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

はい、お願いします。

◎委員（小池　進）

文言もさることながら、解釈というか、コメントがこれでいいのかというところなんですが、14ページ、５－２の図面の中の文章一番下の方なんですが、３行、「観光資源開発や観光産業の振興」の現状評価に比べると、重要度は高く、課題の一つとなっていますと、これだったと思うんですが、ところがこれ本当に高いのかなという気がするんです。この三角でしょう。いずれも左下の方にあるわけですが、これをこういうふうにここへ出していいのかな、どうかなという感じがしたわけです。出すなら、もっと表現が変わらなきゃならないんじゃないでしょうか。と思いますが、いかがでございましょうか。

◎委員長（豊口　協）

事務局、お願いいたします。

◎事務局（竹見）

現状評価に比べるということですので、現状評価と比べてどちらかといいますと、今ちょっと左下の方に矢印がありますけども、そこから比べると上に行っているということです。重要認識の50％のラインは超していないんですけど、評価に比べるという、そういった意味なんですけど。

◎委員（小池　進）

そういう意味で理解できる人はそれでいいんでしょうけども、なかなかそういうふうに解釈しない人が多いんじゃないかと思うんです、左下にあるものを。

◎委員長（豊口　協）

ご指摘のようにちょっとわかりにくいですね、これ。こういう絵柄にしますと、その絵でもってぱっと判断することが多いもんですから、その辺もひとつご検討いただきたいと思います。

こういうコラムはどなたか、これ書かれた方の名前は要らないんですか。どうなんでしょう。無記名で入っていますけども。

◎事務局（竹見）

特に名前は入れないです。

◎委員長（豊口　協）

ちょっと時間をおきますので、すっと目を通していただいて何かありましたらお願いしたいと思いま

す。

◎委員（山本俊一）

前にも出ていたと思うんですけども、この構想の組み立て方なんですけども、一番大事なのは結局ここのところの今の新市の将来構想はこれなんだというのが中間から出てきているわけです。だから、例えばまちづくりを考えるとか、進め方云々というふうなのがむしろこれは反対側になるみたいな部分はどんなもんでしょうか。逆に今結果としてはこういうふうなのが新市の将来構想がここに出ていますと、それでそのバックとして積み重ねたものがここから上がってきたんですよというので、上がってくるというふうなのが、意外とそういうパターンみたいなの多いみたいな気もするんですけど、そんなところでどういうもんでしょうか。

◎委員長（豊口　協）

編集の方法ですね、これはいかがでしょうか。そういう方法もあるよという、今ご指摘なんですけど。

◎事務局（竹見）

ぜひ委員さんの方からご意見いただきたいんですけど。

◎委員長（豊口　協）

今までの時間の経緯で、これはずっと編集してありまして、そのプロセスでこういう内容になっているわけですけども、最終的な方向を最初に打ち出して、その後ろに時間的な経緯をつけたらどうかと、こういう山本委員の方からのご意見でございますが、いかがですか。別冊も出るわけでありますけれども。

◎事務局（竹見）

よろしいですか。

◎委員長（豊口　協）

はい。

◎事務局（竹見）

今回の策定する基本的な考え方なんですけど、こちら何回か委員会の方でご説明させていただいているんですが、策定の考え方とか検討の過程をしっかり明示していこうということが一番の今回の基本的な組み立ての考え方なんです。ですんで、ほかのちょっと構想書は確かに結果が先に出ているんですけど、やっぱり結果だけ載せるんじゃなくて、そういうことで組み立てているんですけど。

◎委員長（豊口　協）

これをベースにして次の新しい市が生まれた場合には、その基本的なビジョンが最初に打ち出されていくことになるだろうとは思いますけれども、余りこれで委員会のプロセスの中でこうするんだというとが前面に出てくるということは、まだちょっと内容としては早いのかなという気もしないでもないんですけども、どうでしょう。

はい。

◎委員（小池　進）

９ページなんですが、新市の将来構想という表現と合併市町村の建設の基本方針というような言葉の使い方なんですが、市町村建設計画という表現よりも新市の建設計画というふうに言った方がすっきりするんじゃないだろうかという感じがするんです。何かこのところ読んでみますと、ちゃんぽんに使われているんじゃないかなというふうに感じるんですが、これで理解できましょうか。例えば「新市将来構想は、市町村建設計画の基本方針につながります」と、こう書いてあるんです。これは、新しい新市の建設計画のことを言っているんじゃないでしょうか。だから、そうなると市町村建設計画という表現ですと、それぞれの８市町村の建設計画にまた逆戻りするような感じがしないでもないんです。この辺どう思いますか。

「それ前のでしょう」という声あり

◎委員（小池　進）

前の資料見ていましたね。ページがね。

◎事務局（竹見）

仮番で７ページでございますよね。

◎委員（小池　進）

そうですね、前の資料では９と打ってあるんですが、７ページになりますか。この真ん中辺の表現なんですけども。新市将来構想は、市町村建設計画の基本方針につながりますと書いてある。

◎事務局（竹見）

それについては、整理させていただきます。

◎委員（小池　進）

わかりました。

◎委員長（豊口　協）

どうもありがとうございました。ちょっとわかりにくい点などございましたら、どうぞどんどんご指摘いただきたいと思います。

◎委員（二澤和夫）

さっき見附の助役さんのおっしゃった件がまだ整理されておりませんが、この将来構想本体、これだけ100ページのものについてはやはりどういう基本的な考え方でつくってきたかというプロセスを非常に大事にしようという確認でございますので、これはこれとして私はこの編集の順序でいいと思うんですが、ただダイジェスト版をつくるときにはわかりやすさということを重点に置きますと、すぱっとおっしゃるように内容をまず出して、それからプロセスを後から説明するという手法もいいんじゃないかと思いますので、私はこの将来構想そのものの編集はこのプログラムの順序でいいんじゃないかなという気がしておるんですけど。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。ということで、これはひとつ視点を変えますと、小委員会の歴史みたいなものです、これ。順番にいろんなことやってきて、こういう積み重ねがあったということで、最終的にこういう方向でいきたいんだということをまとめて提案をする、提案書みたいなことになりますけども、そういう形でこの場合はまとめたらどうかという副委員長からの提案でございますが、よろしいですか。

「異議なし」という声あり

◎委員長（豊口　協）

はい、ありがとうございます。ダイジェスト版につきましては、ご指摘ありましたように、よりわかりやすく、結果を最初に出して、その後資料のフォローをつけていくというふうにしたいと思います。

はい。

◎委員（北村　公）

ダイジェスト版については、どこまで入れるのでしょうか。

◎委員長（豊口　協）

事務局お願いいたします。

◎事務局（高橋）

ダイジェスト版といいますのは、協議会の全体の報告書の中に当然将来構想の部分も入れ込む形で今考えておりまして、それは８市町村の全世帯にお配りをするという考え方でございます。ただ将来構想自体も今まだ固まっておりませんので、この中から一番住民の方にお知らせしたい部分を抜粋をしまして、できれば10月７日の最終のときには、ダイジェスト版という言い方がいいのかどうかちょっとわかりませんけども、住民の方にお示しする報告書のスタイルで協議会の方にもお諮りしたいというふうに考えております。

◎委員長（豊口　協）

どうもありがとうございました。

ほかにご質問等ありましたら。

はい、お願いいたします。

◎委員（高野徳義）

手前のところで恐縮ですが、もっと詳しく地域の力というので、各市町村の見せてもらっているんですが、みんな写真が載るようなレイアウトになっているんですが、山古志のところだけ空いててもったいないんですが、希望があるんですけど、これは村の職員の方に言えばいいんでしょうか。何かここだけたった１枚で。

◎委員長（豊口　協）

何ページでしたっけ。

◎委員（高野徳義）

山古志は49ですけど、他市町村の詳しく地域の力というところ何か空きがあってもったいないんです

が。

◎事務局（竹見）

まだ作成中でございますので、もしそういうことがありましたら職員の方々にまたよろしくお願いします。

◎委員長（豊口　協）

やっぱり１枚じゃ寂しいですよね。

ほかにございませんか。

はい。

◎委員（北村　公）

先般新潟日報に長岡市の商工会議所の市街地の将来構想の話が新聞に載っておりました。その中で、長岡市役所の位置とかいろいろなことがそこの会議の中でいろいろな案が出ていましたけれども、やはり新市の一番の中心になるところはもちろん長岡のわけですし、その中の中心が長岡市の駅前通りというのは８市町村だれが考えてもそこが顔になってくると思うんです。ああいう話が出ていると、それでその代表の方が田村さんという任意協の委員でもあられるわけですので、それはここで具体的に載る載らないは別にしても、何かやっぱり商店街を含めた中心部のことをもう少し新しい長岡市の顔として文言を何か入れた方がいいんじゃないかなと、それは具体的に私言えと言ってもなかなか言えないんですけれども、どうもその辺がちょっと迫力ないんじゃないかなというような気がするんですけれども、いかがなものでしょうか。

◎委員長（豊口　協）

これは私、委員長として、私の私見ですけども、やはり新市をつくるのは合併した後の新しい新市民だと思うんです。ですから、そういう方たちの意見を全部掌握して、じゃどうするかと、ですから市役所はこのままでは存在しないわけですから、市役所を新市民の方々がすべて駅前、大手通りにそれをつくるべきだというお話があればそういう方向へ進むべきと、恐らくそれが第一条件というか、一番最初に新市が取り組まなければいけないプロジェクトだと思うんです。これは、市民サービスの問題ですから。そこへ市役所を置いたときに、じゃ全市の市民に対するサービスのネットワークはどうするのかというふうなことが起きてくると思うんです。

それからもう一つは、財政的な問題もありまして、新しい市役所を大手通りに建てるという、ハードの問題ですけど、建てるということが一つと、もう一つは今大手通りにはたくさん既にでき上がっているビルが市役所の来るのを待っているわけです。ですから、そういうほかの外国の場合には、建物一つに市役所が入っているなんて例は余り多くないわけですから、いろんなビルにそれぞれの機能を持った市役所が分散して入って、よりネットワークでもって市民にサービスするというふうなことも起こってくるだろうと、そういうことが新市民の声として、そういう分散型市役所の存在というのは、要するにコミュニケーションをつくる上には非常に重要だというような意見があれば、そういうふうになってい

くだろうと思うんです。ですから、この将来構想書というのは、そういう声を引き出すための一つの内容であって、これをベースにして新市民がいろんな具体的な自分たちの意見なり方法論を展開してくださる。それは、新しい新市の議会で議論されて、そして具体的に移っていく、そういうベースになると思うんです。ですから、ここで勝手にこうだと決めちゃうわけにはなかなかいかない問題もありまして、私はやはり８市町村の新市民の心のつながりが新しい市をつくっていくだろうというふうに個人的には考えています。お答えになりましたでしょうか。

◎委員（北村　公）

なんとなくわかるんですが、非常に難しい問題です。

◎委員（二澤和夫）

今やっている作業について、ちょっと補足して説明させていただきますと、中心市街地の活性化をどうするかということで、新聞にもございましたように、構造改革会議というものを立ち上げまして、商工会議所の田村会頭さんが委員長になられて今検討していただいて、それで過日中間報告という形で市長に答申があったわけです。それで、来月号の実は長岡の「市政だより」にも載せますけれども、これから広く意見を聞こうということでございます。

それで、三つのパターンが示されたわけですけれども、非常にかいつまんだ言い方をいたしますと、一つは厚生会館跡地、それからもう一つは、昔のイチムラといいますか、あの地区をどうするかということと、もう一つは大和を中心とする表町にかかる内山商店までの間ですけれども、それをどうするかと、これ一応三つの各案です。ところが、もう一つまだペンディングなっていますのは、南操車場跡地をどうするかというのは、今別の次元で議論しているものですから、俎上にのってきていないんですが、あそこに実は国、場合によっては県の出先機関を集めたシビックコアをつくろうということで、今検討されております。

それで、前段の三つの案をかいつまんで言いますと、一つの考え方は厚生会館跡地を平たく言いますと公民館的な施設にしようというのが一つの考え方です。それから、２番目の考え方は大和のところと厚生会館をまるっきり入れかえて、大和デパートを厚生会館のところに持っていって、大和のところのスペースに市民センター的なものを入れていこうというのが第２のパターンです。第３番目のパターンは、厚生会館のところに高層ビルを建てて市役所を持っていこうというふうな考え方です。これ大きく分けて三つの考え方を今提示をしまして、市民の意見を聞こうという考え方が一つ走っていますが、ただおっしゃるように平成17年４月１日から新しい市役所ができるかというと、決してそんなことはないんで、先生がおっしゃるようにその合併後の市役所をどうするかというのは、合併してその後の議論でございますので、やはりちょっと時間的なずれもございますけれども、大きく分けてそういったような考え方を今市民に問うているというのが実態でございます。ちょっと補足させていただきましたけれども。

◎委員長（豊口　協）

どうもありがとうございました。合併は将来の構想の中にあるわけですけども、それ以前の問題としてもいろいろそれぞれの地域でいろんな施策が展開されているわけでありまして、それが将来決定した段階で融合して、解け合って新しい施策の方に展開していくだろうというふうに考えております。

ほかにご質問、ご意見ございませんか。

今日の議題は、この１点でございますので、もしこれ以上ご意見がなければ。

はい。

◎事務局（高橋）

先ほど少しお話ししましたけども、かなりの膨大な資料になっておりますので、まことに恐縮ですが、今日いただいたご意見をまた私どもで整理いたしますが、お帰りいただいてお気づきの点がございましたら、29日、来週の月曜日ですが、午前中くらいまでにご連絡をいただければ１日の日にまた小委員会の予定でございますが、資料として反映をさせられると思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、直接連絡いただいても構いませんし、それぞれの市町村の合併の担当の方から経由して私どもの方に連絡いただいても構いませんので、よろしくお願いいたします。

◎委員長（豊口　協）

どうもありがとうございました。

それでは、ご意見等ありましたら、積極的にひとつ事務局ないしは担当の方にお出しいただきたいと思います。

以上、今日の議題はこれ一つでございまして、ご意見をいただきましてありがとうございました。

次回の小委員会は13回目になりますけども、先ほどから出ております10月１日の午後４時から第３委員会室で行われるということになります。どうぞよろしくお願いしたいと思いますが。

事務局へお返しいたしますが。

◎事務局（高橋）

今委員長からお話があったとおりなんですが、次回１日の日が最終の小委員会になりますので、よろしくお願いいたします。

◎委員長（豊口　協）

それでは、長時間どうもありがとうございました。これで委員会を終わりたいと思います。

午後４時21分　終了